

雌阿寒岳

1 概況

下旬にポンマチネシリ火口直下の浅いところが震源と推定される微小な地震がやや増加しましたが、噴煙などの表面現象に変化はありませんでした。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は火口上 100~200m程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

なお、道立地質研究所が5月15日に測定したポンマチネシリ 96-1 火口の温度(火口北側から赤外放射温度計で測定:放射率 1.0*)は 400 と、引き続き高温を維持していることが確認されました。

3 地震活動の状況

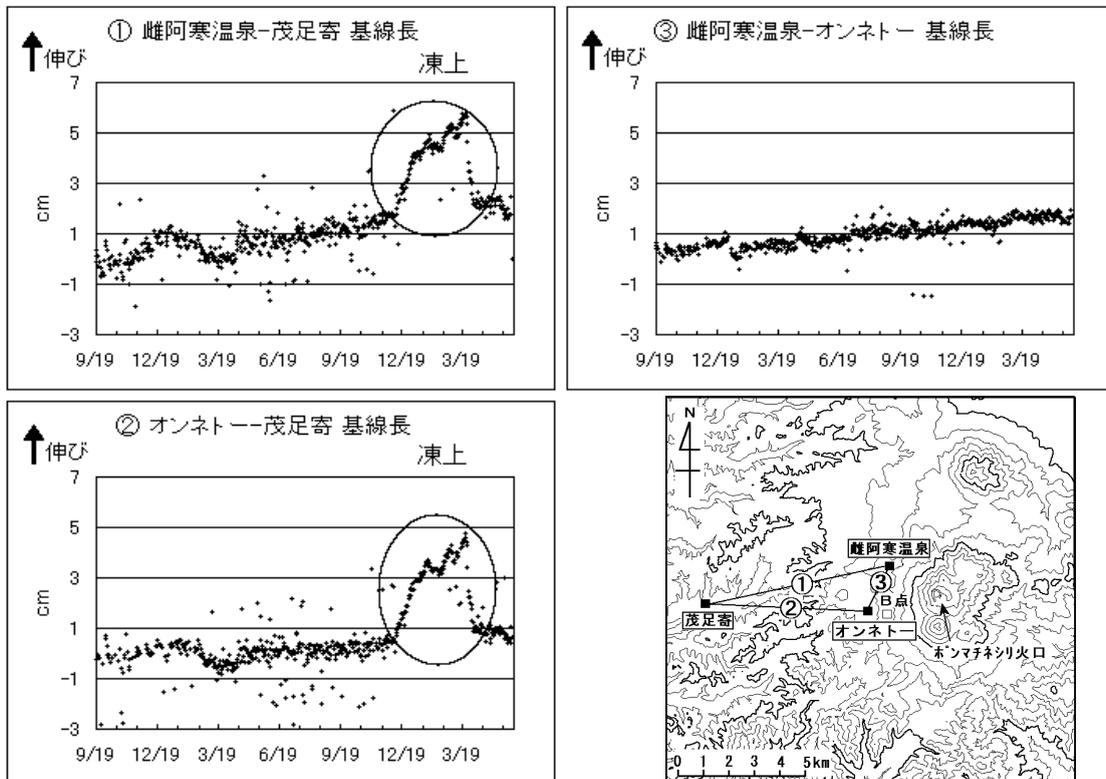
地震回数は中旬まで1日あたり0~5回で経過していましたが、20日以降6~19回とやや増加しました。いずれも微小な地震で震源はポンマチネシリ火口直下の浅いところと推定されます。

月別地震・微動回数(B点)

2002~2003年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	20	32	25	34	21	20	39	204	83	223	375	163
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

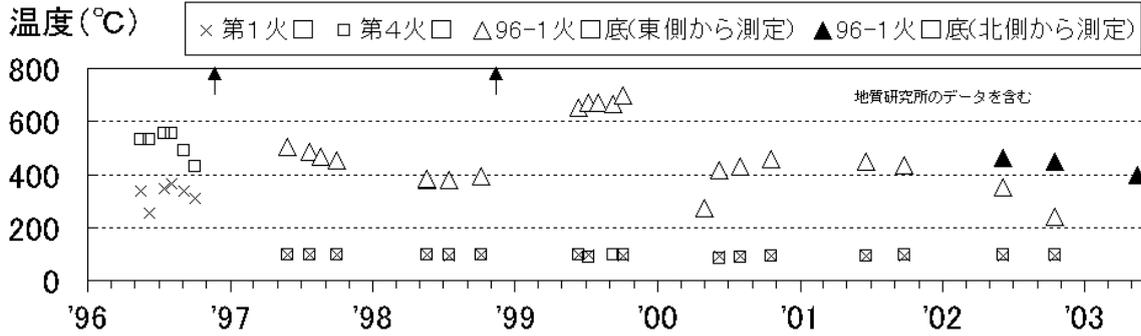
4 地殻変動の状況

GPS観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。昨年12月頃から の基線長に見られていた伸びの変化(図中 で示した部分、凍上と推定)は概ね元の状態に戻りました。

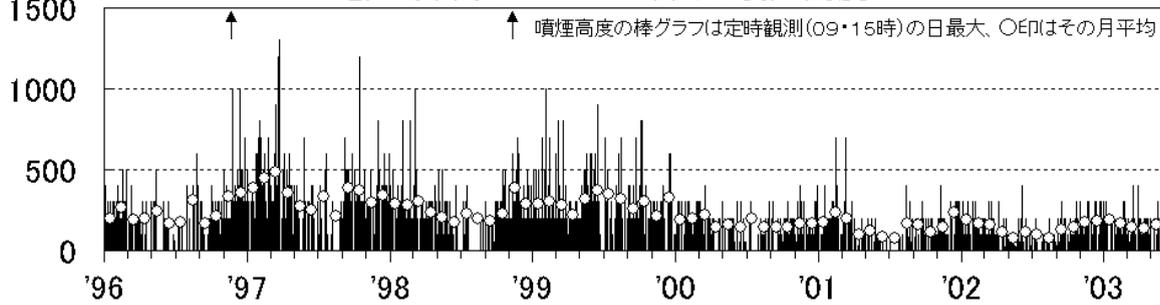


雌阿寒岳基線長変化(2001年9月19日~2003年5月31日)

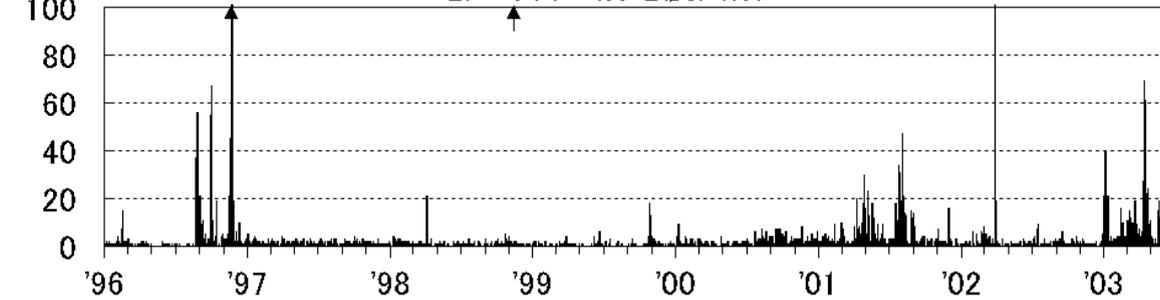
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



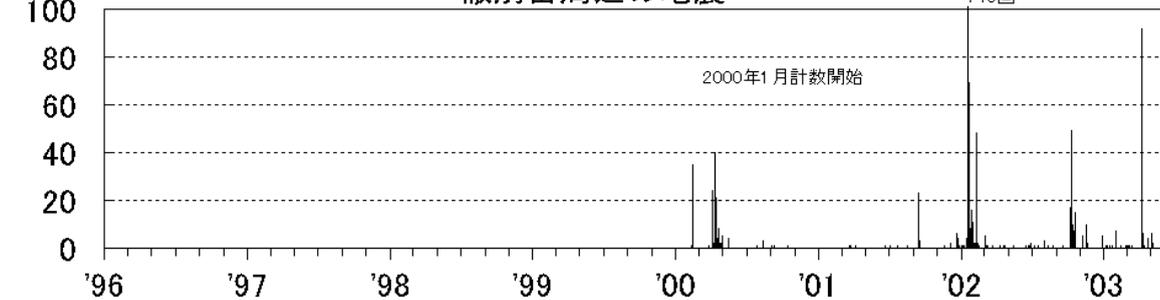
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



雌阿寒岳日別地震回数



徹別岳周辺の地震



雌阿寒岳火山活動経過図(日別、1996年1月1日~2003年5月31日) 印は噴火

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器。熱源から離れた場所から温度を測定できるが、はっきり対象が見えない場合や、熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定により温度が変わってくる。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9~1.0 に設定して測定している。